

## 第2回委員会の議論のまとめ

令和2年4月30日

新型コロナウイルスに対する代替消毒方法の有効性評価に関する検討委員会

本日（4月30日）、「新型コロナウイルスに対する代替消毒方法の有効性評価に関する検討委員会」（本資料中では委員会と略）（委員長：松本哲哉 国際医療福祉大学医学部教授、日本環境感染学会副理事長）の第2回委員会を開催し、インフルエンザウイルスを用いた代替消毒候補物資の有効性評価にかかる検証試験の結果、及び新型コロナウイルスを用いた有効性評価にかかる検証試験の計画について検討を行い、下記の事項を確認した。

なお、今回（第2回委員会）検討を行った検証試験の結果及びその評価は、委員会としての中間的な整理である。

### <インフルエンザウイルスを用いた代替消毒候補物資の有効性評価にかかる検証試験結果> (検証試験における対象物資)

○ 新型コロナウイルスの代替として使用可能なインフルエンザウイルスを用いた検証試験を、前回委員会で選定した界面活性剤8種、次亜塩素酸水（電気分解法で生成したもの）4種、第4級アンモニウム塩1種について、試験プロトコルに沿って検証試験を実施した。

#### (検証試験の結果)

○ 4機関での検証試験の結果は以下のとおりであった。（濃度 0.1%、反応時間5分での結果。桁数は感染価対数減少値）

#### ➤ 界面活性剤

4桁（99.99%）以上： 直鎖アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム、アルキルグリコシド、ポリオキシエチレンアルキルエーテル、アルキルアミンオキシド

3桁（99.9%）以上： 脂肪酸カリウム

2桁（99%）以上： 脂肪酸アルカノールアミド、塩化ベンザルコニウム

感染価の減少を認めず： アルキルベタイン

➤ 次亜塩素酸水（電気分解法で生成したもの）（4種）：いずれも4桁（99.99%）以上

➤ 4級アンモニウム塩（塩化ベンザルコニウム）：2桁（99%）以上

○実施した複数の試験機関の結果は相関しており、試験は成立したと判断できる。

○インフルエンザウイルスに対する検証試験により、下記の物資は新型コロナウイルスに対してウイルス除去効果を有する可能性が一定程度あると考えられることから、これら物資についてまずは優先的に新型コロナウイルスを用いた検証試験を進めることとする。

直鎖アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム、アルキルグリコシド、ポリオキシエチレンアルキルエーテル、アルキルアミノオキシド、脂肪酸カリウムの界面活性剤5種

次亜塩素酸水（電気分解法で生成したもの）4種

#### （その他）

○新型コロナウイルスにおける今後の検証試験結果を待っての議論となるが、仮に有効性が確認できた物資においても、実際に代替消毒手法として活用するに当たっては安全性や適正な使用法への配慮について、十分に留意する必要がある。

#### ＜新型コロナウイルスによる検証試験の計画＞

○新型コロナウイルスを用いた検証試験を実施する。国立感染症研究所及び北里大学大村智記念研究所の協力を得て、両機関がそれぞれ保有する評価系を用い、並行して検証試験を実施することとする。

○検証試験に供するサンプルとして、インフルエンザウイルスを用いた試験に供した界面活性剤8種（第4級アンモニウム塩1種を含む）、及び次亜塩素酸水（電気分解で生成したもの）4種に加えて、文献調査の結果等を踏まえて、界面活性剤1種、第4級アンモニウム塩2種、及び過炭酸ナトリウムの計4種を追加する。

なお、次亜塩素酸水について、現在の4サンプルによる試験成果の適用範囲などを考慮しつつ、追加的な検証試験実施の必要性を事務局で検討し、必要に応じて委員会に諮ることとする。

（注1）本委員会で進める有効性評価は新型コロナ対応に係る国民向け広報等での活用を目的としたものであり、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」（薬機法）、「食品衛生法」、その他の関連する法令等における評価を意味するものではない。

（注2）本委員会は、迅速に検討を進める必要があるため、委員会開催時において収集利用が可能である情報等をもとに検討を行う。このため、事後的に重要な追加情報等が得られた場合には、それまでの委員会の判断を変更することもあり得る。